

## 白老でクラフトビール The Old Grey Brewery

7月から大町3で町内初のクラフトビール醸造を手掛けていた「The Old Grey Brewery」(ジ・オールドグレイ・ブリュワリー)は10月11日、完成したビール(発泡酒)を披露するオープニングレセプションを開きました。

醸造所(延べ床面積377㎡)は2022年に大町3に完成。大町で宿泊施設を経営する菊地辰徳社長、不動産開発の栗原雄平社長(東京)の共同経営で、7月に仕込みを始めました。ビールはアイヌ民族ゆかりのエント茶を加え、飲みやすさや清涼感を備えた6種類です。今年度は3~4万ℓを生産する予定です。11月以降はビールを味わう月1回程度のイベントも計画しており、広く町内外に製品をPRしていきます。

レセプションには40人が出席し、新ビールを味わいながら完成を祝いました。菊地、栗原の両社長は「さまざまな種類を造り、白老の魅力の一つになるように頑張っていく」と話していました。



## しらおいチェブ祭に4000人

第34回しらおいチェブ祭が10月6日、白老港の汐音ひろばで開かれ、来場者がアイヌ文化へ理解を深めました。

チェブ祭はサケの豊漁と漁の安全を祈願し、海の恵みに感謝するアイヌ民族の催事です。開催式では山丸和幸実行委員長が「チェブ祭が郷土の祭りとして発展することを祈る」とあいさつ。大塩英男町長、戸田安彦道議らが祝辞を述べました。会場ではチェプオハウ(サケ汁)、チマチェブ(サケのくし焼き)などが振る舞われたほか、アイヌ民族の古式舞踊、刺しゅうの体験コーナーなどもお目見え、4,000人が来場しました。



## 白老ライオンズクラブが60周年

白老ライオンズクラブ(吉谷一孝会長)認証60周年記念会が10月5日、白老町コミュニティセンターで行われました。170人が出席、北海道栄高校吹奏楽部の演奏で華やかに始まりました。吉谷会長は「これからも奉仕活動を念頭に置き、メンバーが心を一つに切磋琢磨(せっさたくま)し、楽しく活動が続けていきたい」と式辞。大塩英男町長は「ライオンズクラブの飛躍・発展と皆さんの活躍を祈る」と祝辞を述べました。戸田安彦道議は「今住んでいる人たちが、自分の町や自分の地域を好きになる・幸せを感じる、そんなまちづくりを皆さまとつくりたい」と話していました。

